

機関番号：32664

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530160

研究課題名（和文） 金融政策の制度設計についての研究

研究課題名（英文） A study on system design of the monetary policy

研究代表者

渡辺 和則（WATANABE KAZUNORI）

二松学舎大学・国際政治経済学部・学長・教授

研究者番号：50297743

研究成果の概要（和文）：「**金融動学の理論**」研究班（渡辺（和）、浅田、黒木）は、企業、家計、市中銀行、中央銀行を含む金融動学モデル、インフレ率と為替レートを内生変数として含む金融動学モデルを構築し、比較動学分析やカリブレーションの手法を用いて政策的効果を分析した。「**金融制度の歴史的事実分析**」研究班（野下、石倉、渡辺（良））は、2007年に起きた米国の金融不安が世界的に拡大した因果関連を歴史的事実分析の方法により考察し、さらに国際通貨制度の再構築について研究した。「**金融政策と所得分配の理論**」研究班（八木、山田、笠松）は、スラッフモデルにおける賃金と利潤の関係を検討することにより、スラッフモデルの深化を試み、また SNA 体系における銀行の付加価値生産の処理のされ方、銀行が投入・産出という観点でどのように採用されてきたかを整理し検討した。以上の研究成果は平成23年度科学研究費学術図書助成を受けて『金融政策と所得分配』（渡辺和則編、日本経済評論社、2011年）として刊行される。

研究成果の概要（英文）：**The study squad of Theory of the Financial Dynamics** (K.Watanabe, T. Asada, R. Kuroki) built a financial dynamic model to include inflation rate, an exchange rate and analyzed the policy effects using comparison dynamics analysis and calibration. **The study squad of Historic Proof Analysis of the Financial System**(M.Ishikura,Y.Watanabe,Y.Noshita) analyzed the causes and effects of the financial panic that happened in the United States in 2007 and enlarged worldwide by the method of the historic proof analysis and examined possibility of the rebuilding of the international monetary system. **The study squad of Theory of the Monetary Policy and the Income Distribution**(T.Yagi, Y.Yamada, M.Kasamatsu) examined a wage-profit relation in Sraffa's model and tried to develop Sraffa's model. Moreover, it examined the handling of value-added production of banks in the SNA system and considered how banks had been adopted form a point of view of input-output relation..

We received the scientific research funds arts and science books furtherance in 2011, and the results of our research are settled in **Monetary Policy and Income distribution**(Nihonkeizai hyoronsha,2011).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,018	390,000	1,690,018
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	799,798	240,000	1,039,798
年度			
年度			
総計	2,899,816	870,000	3,769,816

研究分野：マクロ動学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：金融政策、制度設計、金融動学、歴史的事実分析、所得分配、金融不安定性、金融システムの構造変化、

1. 研究開始当初の背景

われわれの研究グループは長年にわたりポスト・ケインズ派経済学研究会において、次の2つの研究課題に取り組んできた。「Ⅰ. 金融システムの不安定性は決済システムの脆弱性に起因する。Ⅱ. 金融市場の完備化が進展するほど、資本市場がヘッジファンドや機関投資家の行動により支配される危険が増大し、それによって財市場も著しい影響を受ける。」である。これについてわれわれは、「金融不安定性の問題」に関連しており、貨幣経済を分析対象とする研究者にとって最も関心がもたれているテーマであると同時に、多くの未解決な問題を含む研究課題であるという認識を持っている。

2. 研究の目的

われわれは1990年代初め以来続いてきた日本経済の長期停滞の原因は上述の研究課題と密接に関連していると考えた。また1990年代以後の長期停滞の原因に対する実証研究は多数存在するが、厳密な理論的分析にもとづく研究はあまり存在しない。そこでわれわれはこれまでわれわれの研究グループに蓄積されてきている研究成果をもとに、1990年代以後の日本の金融政策について展望し、評価を行い、重要な問題点を明確にし、さらにそれを踏まえて、今後の望ましい金融政策の制度設計を提示し、この分野の研究をリードしていくことを目指す。

3. 研究の方法

研究組織を「金融動学理論」、「金融制度の歴史的事実分析」、「金融政策と所得分配の理論」の3研究班に分け、さらにそれらを包括する研究班として「金融政策の制度分析」を置く。

(1)「金融動学理論」研究班 ヘッジファンドの行動と銀行行動を考慮した金融動学モデルを構築し、コンピュータ・シミュレーションにより金融政策の効果を検証する。

(2)「金融制度の歴史的事実分析」研究班 金融政策に関する実証研究をより大きな視野で位置づけていくため、背後にある歴史的コンテクストを考慮し、金融制度と金融政策の変遷過程とその効果を時系列的に追究する。

(3)「金融政策と所得分配の理論」研究班 金融政策の効果については、効率性の観点から評価されることが多いが、本研究では所得分配の観点からの評価を重視し、金融制度と

金融政策の変化が所得分配に与える影響を理論と実証の両面から研究する。

(4)「金融政策の制度分析」研究班 本研究で取り上げる金融政策の制度設計は、金融政策の策定の方法と過程、金融政策のルール、効率的な決済システムの確立、資産価格の評価と政策運営上の位置づけ等である。

4. 研究成果

(平成20年度)

「金融動学理論」研究班：浅田は、内生変数として為替レートを含み高次元のマクロ動学モデルを構築し、インフレとデフレ下での財政金融政策の効果をカリブレーションによって分析した。黒木は、景気循環における、企業、家計、市中銀行、中央銀行のバランスシートの継起的変化を分析し、Graziani(2003)、Lavoie(2004)のサーキットアプローチ(Circuit Approach)による貨幣循環についての分析を検討した。渡辺(和)は、企業の資金調達、市中銀行の信用創造、中央銀行によるコールレートのペッグ政策を定式化し、金融的要因の変動によって実物部門の変動が増幅的に拡大するメカニズムを分析した。

「金融制度の歴史的事実分析」研究班：野下、石倉、渡辺(良)は、2007年に起きた米国の金融不安が世界的に拡大した因果関係を歴史的事実分析の方法により考察した。さらに、野下は、HLI(Highly Leveraged Institution)の拡大と多様化の過程を、資産価格形成の変容とそれによるヘッジファンドなどの機関投資家による投資戦略の転換、及びそれに対応する大手金融機関によるHLIの設立という側面から歴史的時系列を重視しながら考察した。石倉は、銀行部門の構造変化を中心に、日本の金融システムの構造的変化を検討した。また石倉は、雇用者の年間所得に関するジニ係数の要因分解により非正規雇用の増加と所得格差の拡大について分析を行った。

「金融政策と所得分配の理論」研究班：八木、山田、笠松は、スラッファモデルにおける賃金と利潤の分配関係を検討し、スラッファモデルの深化を試みた。特に、八木は、スラッファ(196)の第3部で展開された賃金曲線を、八木が開発してきた生産性指数を組み込むことにより拡張し、分配理論や資本理論の新しい基礎となる独自の2つの賃金曲線を示すことにより、スラッファモデルを深化させた。

(平成 21 年度)

「**金融動学理論**」研究班：浅田は、貨幣と金融資産を含む非線形の高次元ケンジアン・マクロ動学モデルおよび変動相場制を前提にしたカルドア型の非線形 2 国動学モデルの数学的解析と数値シミュレーションによって、政策パラメーターを含む重要な諸パラメーターの変化がシステムの安定性・不安定性や循環的変動のパターンに及ぼす影響を分析した。

「**金融制度の歴史の実証分析**」研究班：渡辺(良)は、発達した金融システムを内蔵する現代資本主義経済において貨幣が演じる独特な役割について、(1)長期的な非中立性、(2)内生性および(3)不安定性の 3 つの視点から分析を行った。野下は、1970 年代初めにポスト・ケインジアンがひとつの独立した学派として形成された背景とそれ以降の理論的な発展を振り返り、最近のケインズ主義の復権に至る過程を考察した。石倉は、金融システムの構造変化をめぐる近年の論争点である「市場型間接金融の再検証」という課題に取り組むため、貸出債権の証券化に伴う資金循環構造の変化、および、証券の流動性と銀行の流動性選好に注目して、貸出債権の証券化がマクロ経済に及ぼす影響を分析した。

「**金融政策と所得分配の理論**」研究班：八木は、固定資本に対する利潤を含む貨幣表示のレオンチェフ体系の中に、労働量で測定可能なスラッファ体系で説明可能な基本部分を見だし、多部門の投入産出構造と、マクロ経済の重要な変数である実質賃金やマークアップ式との関連を明らかにした。

国際カンファレンスと招待講演の開催

この活動については、八木尚志が中心的役割を担った。

(1) 海外研究者 3 名を招待し、The Ricardian-Post Keynesian Joint International Seminar (2009/9/5.6) を開催した。

(2) 宇沢弘文東大名誉教授によるポスト・ケインズ派経済研究会 30 周年記念講演「ポスト・ケインジアンとネオリベラリズムと市場原理主義」(2010/3/15、明治大学)

(3) 小川一夫大阪大教授による招待講演「金融危機と産業構造：「失われた 10 年」への産業関連アプローチ」(2009/12/26、早稲田大学)

(平成 22 年度)

「**金融動学の理論**」研究班：浅田は、カルドア型景気循環の 2 地域(2 国)モデルの動学分析、財政金融政策によるマクロ安定化政策の動学分析、北欧型福祉資本主義の動学分析等を行った。渡辺(和)は、企業のバランスシート調整式と政府予算制約式を含むモデルによって、企業と市中銀行の期待の変化によ

る生産量の変動が大であることを示した。

「**金融制度の歴史の実証分析**」研究班：石倉は、日本の金融構造の変化の観点から、1980 年代後半のバブル経済期と 2000 年代前半の量的緩和政策期における金融政策の目的と手段を比較・検討し、貸出債権の証券化と銀行行動との関連、証券化商品の流動性を確保する市場制度の問題点について分析を行った。野下は、2008・9 年の世界金融危機を引き起こした資本運動がグローバルに資産選択活動を行っている国際投資家群であるとして捉え、こうした国際投資家を概念化するために、資本理論について理論的かつ歴史的な検討を行った。

「**金融政策と所得分配の理論**」研究班：八木は、産業連関表のデータにスラッファ体系を適用する方法を開発し、多部門の生産体系を基礎とした生産性変化と分配変化を考慮する理論を構築した。笠松は、銀行の付加価値生産の SNA 体系における処理のされ方、銀行が投入・産出という観点で採用されてきた様々な方法を整理し検討した。

本研究の成果の公表

本研究の成果は平成 23 年度科学研究費学術図書出版助成を受け、論文集『金融と所得分配』(日本経済評論社)として平成 23 年 10 月に出版される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

浅田 統一郎, C. Douskos, V. Kalantonis and P. Markellos, Numerical Exploration of Kaldorian interregional Macrodynamics : Enhanced Stability and Predominance of Period Doubling under Flexible Exchange Rates, Discrete Dynamics in Nature and Society, 査読有, 2010, 2010, 1-29.

渡辺 和則、企業のバランスシート調整と投資の決定、『国際政経』(二松學舎大学国際政治経済学部)、査読なし、第 16 号、2010、1-10。

石倉 雅男、貸出債権の証券化とマクロ経済、『季刊・経済理論』、査読なし、第 47 巻、第 2 号、2010、38-48。

野下 保利、HLI (Highly Leveraged Institution) 危機と国際金融ガバナンス、『証券経済学年報』。査読なし、第 45 号、2010、114-116。

T. Asada, C. Douskos, V. Kalantonis, and

P. Markellos, Numerical Exploration of Kaldorian Interregional Macrodynamics : Stability and Predominance of Period Doubling under Flexible Exchange Rates, I. Troch and F. Breiteneker (eds.) Proceedings of MATHMOD VIENNA 09 (6th Vienna Conference on Mathematical Modelling), 査読有り, 2010, 1194—1203.

野下 保利、国際金融ガバナンスの現段階—FSF(金融安定化フォーラム)改組の意味するもの—、『証券経済研究』(日本証券経済研究所)、査読なし、2010、15-39。

野下 保利、『グローバリゼーション』についての方法的考察 - 新たな統合的分析枠組みを求めて、『政経論叢』(国土館大学)、査読なし、通号149号、2010、65—98。

渡辺 良夫、ポスト・ケインジアンによるケインズ貨幣理論の拡充と展開、『明治大学社会科学研究所紀要』、査読有り、第48巻、2010、117—143。

Asada Toichiro, Inflation, Deflation and Employment : A Macrodynamic Approach, Inflation, Deflation and Employment : A Macrodynamic Approach” D. T. Bentley and E. P. Nelson (eds.) Inflation : Roles, Targeting, and Dynamics, Nova Science Publishers, New York, 査読なし, 2008, 77-99.

石倉 雅男、日本における非正規雇用の増加と所得格差の拡大、(渡辺雅男編『中国の格差、日本の格差：格差社会をめぐる日中共同シンポジウム』(彩流社)、査読なし、2009、71—919。

〔学会発表〕(計5件)

浅田 統一郎、Central Banking and Deflationary Depression : A Japanese Perspective、日本金融学会 2010 年度秋季大会、2010 年 9 月 25 日、神戸大学。

渡辺 和則、企業のバランスシート調整と投資の決定、ポスト・ケインズ派経済学研究会、2010 年 12 月 25 日、早稲田大学。

石倉 雅男、Securitization of Loan Assets and the Macroeconomy, The 14th Conference of the Research Network "Stabilizing an unequal economy? Public debt, financial regulation, and income distribution", organized by Hans- Bockler-Stiftung, Institut für Makroökonomie und Konjunktur forschung, 2010 年 10 月 30 日、ベルリ

ン(ドイツ)。

八木 尚志、'Sraffa's System and I-O Table', The Ricardian-Post Keynesian Joint International Seminar, 2009 年 9 月 6 日、明治大学駿河台校舎アカデミーコモン9階309G。

八木 尚志、The Leontief System, the Sraffa System and Markup Equation, ヨーロッパ経済学史学会、2010 年 3 月 27 日、アムステルダム大学(オランダ)。

〔図書〕(計1件)

渡辺和則編『金融と所得分配』(日本経済評論社、2011 年刊行予定、平成 23 年度科学研究費学術図書出版助成)、浅田統一郎(第1部第1章)、渡辺和則(第1部第3章)、黒木龍三(第1部第4章)、石倉雅男(第2部第8章)、渡辺良夫(第2部第10章)、八木尚志(第3部第14章)、笠松學(第3部第15章)。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~pk/pk>

(このサイトは八木尚志によって運営されているものである)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 和則 (WATANABE KAZUNORI)

二松学舎大学・国際政治経済学部・学長・教授

研究者番号：50297743

(2) 研究分担者

浅田 統一郎 (ASADA TOICHIRO)

中央大学・経済学部・教授

研究者番号：20151029

黒木 龍三 (KUROKI RYUZO)

立教大学・経済学部・教授

研究者番号：70186534

野下 保利 (NOSHITA YASUTOSHI)

国士舘大学・政経学部・教授

研究者番号：10150393

石倉 雅男 (ISHIKURA MASAO)

一橋大学大学院・経済学研究科・教授

研究者番号：80222983

渡辺 良夫 (WATANABE YOSHIO)

明治大学・商学部・教授

研究者番号：50130844

八木 尚志 (YAGI TAKASHI)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：90261825

笠松 學 (KASAMATSU MABU)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：50120910

山田 幸俊 (YAMADA YUKITOSHI)

大美林大学・リベラルアーツ学群・教授

研究者番号：50166740

(3) 連携研究者

田端 克至 (TABATA KATSUSHI)

二松学舎大学・国際政治経済学部・教授

研究者番号：50297743

黒瀬 一弘 (KUROSE KAZUHIRO)

東北大学大学院・経済学研究科・准教授

研究者番号：80396415